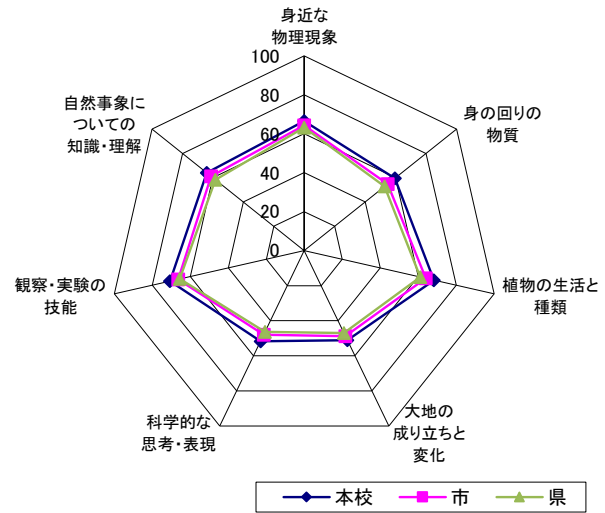


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	66.5	64.3	63.2
	身の回りの物質	59.6	54.8	52.8
	植物の生活と種類	68.3	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	51.1	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	51.7	48.0	46.4
	観察・実験の技能	70.7	66.4	65.6
	自然現象についての知識・理解	64.1	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「力と圧力」に関する問題では、県平均と比較して、8.7ポイント上回っている。 ●「光の反射の規則性から、鏡に映る範囲を推測する問題」では、33.5%と低くなっており、県平均を8.2ポイント下回っている。また、「浮力は水の深さと関係ないことを浮力とは関係がないことをふまえた説明をする問題」では、学力層による差が77.6%と大変大きい。「力と圧力」の問題では、下位層の正答率が18.3%とかなり低い。	・物理分野は、概念が難しくイメージしにくいので、実験や観察・映像の視聴などを通してイメージしやすくする工夫をしていきたい。 知識を、単なる暗記ではなく、いろいろな情報や知識を結びつけて導き出せる、考え方をパターン化してそれを使っていく力を身に付けていく授業を展開していきたい。 説明問題が苦手のようなので、普段から実験・観察の結果をもとに考察をしていく習慣をつけていきたい。
身の回りの物質	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「状態変化」に関する問題では、77.4%と高い平均正答率であり、県平均を11.6%上回っている。 ●「水溶液中の溶質の様子を表す粒子のモデルを推測する問題」では、20.4%と低くなっており、県平均を7.8ポイント下回っている。また、「水上置換法では体積を正しく測れない理由を説明する問題」では、無解答率が17.4%であるが、下位層では53.7%とかなり高くなっている。さらに、「物質のすがた」「水溶液」の問題では、正答率の二極化が起きている。	・モデルを使って考えるなどの抽象的思考を苦手とする生徒が多いと考えられることから、目に見えないことを具体的にイメージしていく力を身につけさせる授業を展開していきたい。 また、実験・観察をただ漠然と行うのではなく、実験・観察の結果に対し、「なぜ?」「どうして?」と追究し考えさせる授業を展開し、そのことが起こる必然性に目を向けさせていきたい。 さらに、理解の進んでいる生徒が分からなくて困っている生徒に教えてあげることで、両者の差を縮めていきたい。 説明問題が苦手のようなので、普段から実験・観察の結果をもとに考察をしていく習慣をつけていきたい。
植物の生活と種類	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。「生物の観察」「植物のからだのつくりとはたらき」「植物のなかま」のすべての問題について県平均を上回っている。特に、「葉が重なり合わないようについている理由を説明する問題」では、85.0%と正答率が高く、県平均を11.1ポイント上回っている。 ●「植物のからだのつくりとはたらき」「植物のなかま」の問題では、全体の正答率は高いものの、下位層の正答率がそれぞれ36.6%、27.6%と低くなっており、上位層との差が大きい。	・植物は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験や観察を通して、実感をとまなう授業をしていきたい。学習した知識とおしや知識と実物を結びつけて定着できるように取り組んでいきたい。 また、上位層と下位層の正答率に開きがあることから、机間指導やノートチェックなどを通して、個別に支援をしていきたい。
大地の成り立ちと変化	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「初期微動に続いて起こるゆれの名称を答える問題」問題では、平均正答率が84.4%と高く、県平均を17.5ポイントも上回っている。 ●ただし、下位層では48.8%で、その差に開きがある。また、この分野は概して正答率が低い傾向にある。特に、「地層の重なりと過去の様子」の問題では、上位層と中間層の正答率に開きがある。さらに、「石基と斑晶からなる火成岩のつくりの名称」「地層ができた年代を推測する化石の名称」を答える問題における無解答率がそれぞれ12.6%、15.0%と高くなっている。	・この分野は、他の分野に比べて体験や観察などが十分にできないことも多い。また、突発的なできごとについての学習もあり、資料の収集が難しいという面もある。そのため、できごとが起こったときにどんなデータをどのように集めるかなどを考えておき、様々な資料を計画的に収集することが必要である。そのようにして収集した資料を効果的に使用した授業、モデルによる再現実験や実物の観察の授業を行い、学習内容を身近に感じたり、実感とともに理解したり考えたりできるようにしていきたい。